

社会性や豊かな心を育む道德教育の充実
～家庭や地域との連携を図った道德教育の推進～

I はじめに

道德の教科化に伴う改正中学校学習指導要領は、平成27年4月1日から移行措置として、その一部又は全部を実施することが可能であり、平成31年4月1日から全面实施することになっている。

「道德の時間」が「道德科」として新たに位置付けられるが、私たちは今までどおり「学校の教育活動全体を通じた道德教育の重要性」「豊かな体験の充実」「家庭や地域との連携の推進」を念頭に置いて道德教育を行っていかなければならない。そして、人が互いに尊重し合い協働して社会を形成していく上で共通に求められるルールやマナー規範意識などを身に付けるとともに、人間としてより良く生きる上で大切なものとは何か、自分はどうのように生きるべきかなどについて、様々な体験活動を通して一人一人が考えを深められるような生徒の育成に努めなければならない。

そのための校長の役割や関わり方を本研究を通して明らかにしていきたい。

II 研究の概要

1 研究内容

<平成28年度>

- ①家庭や地域との連携を図った道德教育の各校の実践を把握する。
- ②各校の実践における校長の関わりを確認する。
- ③各校の実践(校長の関わり)を発表する。

<平成29年度>

- ④校長の関わりという観点から、課題を確認する。
- ⑤課題に対する解決策を検討する。
- ⑥解決策をもとに各校で実践し、成果と新たな課題を確認する。

2 各校の実践と校長の関わり

【実践】

- 家庭・地域と連携したあいさつ運動を推進している。
- 「甲州市『親のあり方』十か条」「甲州市子ども十の誓い」を家庭に配布し、それらを意識した道德教育を実践している。
- 地域の母子の協力を得て、「赤ちゃんふれあい体験」を行い、命の尊さ等について学んでいる。
- 通学路や公民館等の地域美化活動（地域清掃）を行っている。
- 地域の老人ホーム・保育所等を訪問し、交流を図っている。
- 2年生の職場体験の事前指導として、講師を招聘してマナー講座を実施している。
- 地域の協力を得て有価物回収を実施している。
- 毎月、アルミ缶・エコキャップの回収を行っている。
- 授業参観で、道德の授業を公開したり、学校評価で道德的項目の調査・評価を行いその結果を公表したりしている。

- 道徳の授業参観の折に、地域の方を招いてゲストティーチャーとして話をさせていただくこともある。
- 地域に住む方が「いのち」についての絵本を作成した折、生徒に対し「命の授業」をしてもらった。
- 地域人材を活用した講演会を実施している。
- 「私たちの道徳」を持ち帰らせ家庭の話題とする機会を作っている。
- 小中ブロック交流会で道徳授業を公開している。
- 「学校だより」を通して保護者への生徒指導・道徳的依頼もしている。
- 倫理観や正しい価値観を醸成しやすい、学校として1年間取り組むスローガンや学校魂といっている事柄や学校として特に身につけさせたい生活規範を提示して各教室の前面や廊下や階段の踊り場にパネルとして掲示している。
- 地域の行事に積極的に参加するように指導し、大人との関わりの中で社会性を身につけるようにさせている。
- 農業体験学習（ジベ処理・ぶどうの袋かけ等）を実施している。

【校長の関わり】

- 道徳的実践力を高めるために多くの交流・体験機会を充実させている。
- 多くの講演会の設定やキャリア教育の推進など、バランスよく取り組むことにより全人的な道徳教育の推進を心がけている。
- 毎月の学校だよりを学区全戸に回覧し、学校の様子を伝えるとともに、「あいさつ」についての協力等をお願いしている。
- 地域を大事にし、積極的に交流を図るようにしている。
- 普段から、公民館活動などに参加し、地域の人との交流を図るようにしている。
- 地域の人材を活用するときに依頼をしたり、地域の人材を知るために情報収集にあたっている。
- 道徳の時間に招聘した地域の講師の方には、必ず校長室で丁寧に応接するよう心がけている。その事で継続した依頼が可能になっていると思われる。
- 道徳の授業内容で地域や保護者に関する事柄についてはPTAの会議などで内容を話すようにしている。また、PTAの会議で地域人材の発掘を依頼することもある。
- 全校集会での校長講話等で道徳的内容に触れたり、生徒の道徳的実践を評価するようにしている。
- 農業体験受け入れ先の提案、連絡・調整等を行っている。
- あいさつの励行やよりよい人間関係づくりに寄与する内容の標語を校門近くの大形看板に設置し、地域の方々にも目にとまるようにしている。

Ⅲ まとめと課題

研究1年目の今年度は、家庭や地域との連携を図った道徳教育の各校の現状とその実践における校長の関わりを確認した。各校の実践における成果を見るにつけ、「学校の教育活動全体を通じた道徳教育」「家庭や地域との連携」「職場体験やボランティア活動などの豊かな体験の充実」「校長の関わり」の重要性を改めて確認することができた。

また、その中で、今後より充実した道徳教育を実践していくための課題も見えてきた。来年度はこれらの課題をきちんと確認していくとともに、校長の関わりという観点から課題に対する解決策を検討していきたい。そして、解決策をもとに各校で新たな実践を試み、生徒の道徳性をいっそう育てていきたい。

（研究部長 広瀬 真次）